

事例報告

氏 名 : 藤田 伸輔

所 属 : 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部

題 名 : 退院支援における ICF 評価の試み

要 旨 :

1, 活用の分野

社会福祉、身体障害、精神保健、小児、高齢者など

2, 活用の方法

① 背景(ICFの導入に至った経緯)

千葉大学医学部附属病院に入院した患者のうち、退院支援が必要な方の生活機能評価を標準化することを目指した。

② 実際の取り組み

(対象者の健康状態、疾患や人数、施設、期間、教育、方法など)

身体機能の各項目と、それらが機能障害に陥った際に影響される活動と参加、環境因子(支援と関係・態度・サービス制度政策)との関連を記載したものがあれば便利。

サービス・制度・政策では身体障害者福祉法と交通手段への補助制度などの関連を記載したものがあれば便利。

3, 取り組みの結果

実際にICFを活用したことにより改善した点(ICF導入以前との比較)。現在まだ試行段階であり、特に改善には至っていない。

4, 現状の課題と今後の取り組みについて

現場でICFを活用する際の問題点、また解決策など。

日本の生活に適合していない部分がある。

社会指標として必要な項目と、個人生活を表記する項目の整理が必要。

評価の判断基準が必要。研究毎に設定しても良いが、標準が必要。

関連項目が設定されていないことが使いにくさとなっている。

退院支援で使用するためには、項目間の関係などのツールを整備すべき。

参考資料 :

症例1 : 67歳。女性。

既往症 : 糖尿病

現病歴 : 7月10日脳梗塞発症のため救急車にて来院。

入院時は意識100

右片麻痺を残して回復 : b7302 右側筋力低下、b7352 右側筋緊張亢進

→b16711 書字能力低下、d170 書くこと、d410-499 移動、

d510-599 セルフケア、d630-649 家事、

家庭 : 義母 (88歳) 認知症、介護中

夫 (68歳) 高血圧、肺がん術後2年目

娘 (44歳) 既婚、札幌

息子 (42歳) 独身、同居 : 食事の準備・洗濯

娘 (37歳) 既婚、東京

実母 (90歳) 独居、生活が心配・少し認知症

生活 : 自宅 : 一軒家・2階建て・広い・段差多い・買い物遠い (自転車10分)

自室は2階、トイレ・風呂は1階

収入 : 年金、

介護保険申請中

身体障害申請予定

楽しみ : 畑・生け花

症例2 : 75歳。男性。

既往症 : 高血圧。

現病歴 : 平成19年9月13日。上顎癌にて手術。左眼球摘出。

s220 眼球の構造、s3202 口蓋の構造、s330 咽頭の構造

b210 視覚機能、b3101 音声の質、b320 構音機能、b51050 口腔内嚥下
嚥下訓練、発音訓練にてADL回復し平成20年1月25日軽快退院。

平成20年4月7日腰椎転移にて再入院。

痛みのために歩行困難。

b38013 背部 (腰部) の痛み、d410-499 移動、

d510-540 セルフケア

家庭 : 妻 (68歳)

息子 (45歳) 既婚、九州

生活 : 自宅 : マンション・1階・広い・段差少ない・トイレ・風呂は手すり付き

収入 : 年金、

介護保険使用中

楽しみ : 囲碁・畑

身体障害者福祉

税制上の優遇措置

e5700 社会保障サービス

所得税の障害者控除、特別障害者控除、同居特別障害者扶養等控除

住民税の障害者控除、特別障害者控除、同居特別障害者扶養等控除

住民税の障害者等の非課税限度額

自動車税、軽自動車税、自動車取得税の減免

所得保障

e5700 社会保障サービス

障害者年金

公共料金の割引

e5400 交通サービス

有料自動車道路

J R

航空旅客運賃割引飛行機

医療費

e5800 保健サービス

医療保険自己負担分の助成

福祉器具

e5750 一般的な社会的支援サービス

公共住宅優先割り当て

e5250 住宅供給サービス